

流通情報学部開設20周年によせて

学長 野 尻 俊 明

流通情報学部が開設20周年を迎えられましたこと、誠におめでとうございます。多くの関係者の皆様とともに、心からの祝意を表したいと思います。私自身も学部開設時のメンバーの一人として、大変うれしく、またたくさんの楽しい思い出が脳裏に浮かびます。

ところで、1996（平成8）年4月に流通情報学部が経済、社会学部に続く第三番目の学部として本学に開設されたことについては、いくつかの理由、背景があります。

まず、わが国においては1980年代からIT時代（情報化時代）がスタート、90年代には経済をはじめとする社会の諸活動で、インターネットをはじめITの利用、活用が当然のこととされるようになってきたこと。特に、流通・物流の分野において情報化は必須の課題であり、流通・物流＝情報という時代の潮流があったことがあります。本学は開学以来、産業界から要請される有為な人材を社会に送り出すことを使命の一つとしていますが、まさに流通情報学部は、情報化時代を担う人材の育成という社会的要請に応えるための学部として船出をしました。

次に、本学園に固有の事情として、流通経済大学は流通情報学部開設のほぼ30年前の1965（昭和40）年に日本通運株式会社の出捐を受け、「経済学就中流通経済」の教育・研究機関として創設されました。創立以来の30年の歴史の中で、一貫して流通分野に特化しない一般的な経済学を中心とする「経済大学」への道を歩み続けた、という評価が当時の大学幹部の頭の中にあり、この機会に建学の理念を体現した学部を設置したいという思いが強まった、ということがあります。大学創立30年を機にもう一度、創立時の理念を再確認、再チャレンジを図る原点回帰の意図があったといえます。

流通情報学部は、当時としては他に類を見ないわが国初めてのユニークな新学部構想であったこともあり、文部科学省への学部設置認可申請にあたって、種々の苦難があったと聞いています。しかし、当時の佐伯弘治学長（本学第二代学長、後に学校法人日通学園学園長）の強力なリーダーシップのもと、IT時代にふさわしい新学部が誕生しました。

こうしてスタートした新学部は、初代学部長の坂下昇先生（本学第三代学長）のもと、教員が一致団結、社会科学と自然科学を融合した新しい学問分野への挑戦と文系・理系の双方の基礎的知識を有し、情報に係る専門的スキルを身につけた人材の養成へ踏み出しました。また、収容定員の中に留学生枠を設けて、海外からわが国の流通・物流システムを勉強したいという外国人学生に門戸を広げたことも、新学部の特長でありました。

さて、私自身の流通情報学部時代の思い出は非常に沢山あります。中でも、最も印象深く記憶に残っているのは学生諸君を引率しての海外研修です。これは1989年9月5日から同月17日まで「第一回流通情報学部北米研修旅行」を、同僚の野村宏先生とともに企画し、学生有志を募り、アメリカ合衆国とカナダの各地を回ったことです。参加した学生の中には韓国からの留学生諸君も交じり、国際色豊かな研修メンバーとともにアメリカの大規模な物流施設やカナダの巨大なショッピング・モール、そしてロサンゼルスユニバーサル・スタジオの物流バックヤードツアーなどの盛りだくさんな研修・見学、同行した学生諸君との楽しい交流など、とても有意義で楽しい海外研修でした。

今後の流通情報学部には、学部開設の理念を継承してグローバル時代のロジスティクスの最先端の研究と人材の養成を大いに期待したいと思います。現在では、物流・ロジスティクスは社会のインフラの一つとして認知され、産業活動、市民生活に不可欠のサービス分野に成長しています。こうした分野での専門的な高等教育機関は、わが国の大学においては本学の流通情報学部において他になく、ますます社会における役割の重要性が増してくるものと思います。流通情報学部の今後のさらなる発展を期待してやみません。